

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつとよなかこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府
27～31	①学校名	大阪府立豊中高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	原則として全校生徒を対象とするが、特に文理学科生徒、スーパーグローバルセミナー（SGS）の生徒を中心に実施。	
	文理学科	160	161	157			
普通科	200	202	198		600		
⑥研究開発構想名	「多様性」と「文化」を掛け橋にして世界を牽引する人材を育成する。						
⑦研究開発の概要	イスラーム文化に対する既成概念を脱し、イスラーム諸国の中でも親日といわれているインドネシアやトルコと日本が培ってきた絆の歴史・文化・社会的過程を探究することで、欧米中心のグローバルスタンダードを超えた新たなパラダイムを構築する。これを踏まえ、日本経済再生の鍵を握るビジネスモデルを創造できる人材育成プログラムを開発する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>【目的】欧米だけでなく、視野を広く持ち、国内外の情勢を的確につかみ適切に対応していく力を育成する。中でも、言葉や文化の壁が非常に大きくて理解しがたいイスラーム諸国として、比較的親日であり日本との繋がりの深いトルコやインドネシアを対象に、新たなビジネス・スタンダードを創造できる人材、さらに様々な国際舞台で世界を牽引する人材を育成していくことを研究開発の目的とした。</p> <p>【目標】世界を牽引するグローバル・リーダーを育成する教育プログラムとして、</p> <p>①クリティカル・シンキングやケースメソッド等のアクティブラーニング型の学習法を用い、プレゼンテーションやディスカッション等のスキルを高める。</p> <p>②イスラーム圏を中心とした大学院・大学・地域の留学生等とのディスカッションを通し、文化の壁を突き破り、世界を視野に入れた考え方ができるようなグローバル・リーダーに相応しいコンピテンシーを身につけさせる。</p> <p>③「豊高型グローバルマインドセット評価のルーブリック」を活用したポートフォリオ評価で、グローバルな社会問題を発見・解決できるに相応しいコンピテンシーを身につけさせる。</p> <p>④欧米中心のグローバルスタンダードにとらわれない日本・イスラームの新たなスタンダードを構築し、トルコやインドネシアを対象に、ビジネスプランの起業やクラウドファンディングをめざす。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状として、①未知の分野やコミュニティに果敢に飛び込んでいく積極性・冒険心が薄い。②プレゼンテーション能力やディスカッション能力を育成するプログラムの開発が十分でない。③学際的で超越的な幅広い知識・教養を身につけられるような体系的なプログラムができていない。④英語でディスカッションできるレベルの実践的コミュニケーション能力を育成するプログラムができていない。</p> <p>以下のSGH人材育成プログラムで、グローバルな社会問題を発見・解決できる人材やビジネスや国際的な社会貢献の分野で活躍できる人材を育成する。①「TOYONAKAグローバルプログラム（TGP）」（全校生を対象にグローバルシチズンシップの育成プログラム）②「スーパーグローバルプログラム（SGP）」（文理学科の生徒を対象に欧米文化とともに世界の大きな潮流であるイスラーム文化の理解の深化を通して、アジアの国の日本から世界に向かって発信・提案できる人材育成プログラム）③「スーパーグローバルセミナー（SGS）」（希望生徒を対象に海外フィールドワーク及びグローバル課題に立ち向かえる人材育成プログラム）</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①SGH生徒研究発表会による研究発表を行う。</p> <p>②大阪府指定GLHS（グローバルリーダーズハイスクール）主催の京都大学キャンパスガイド・合同発表会で英語による研究発表を行う。</p> <p>③各種団体主催のコンクールやコンテストに積極的に応募し、研究成果を発表する。</p> <p>④豊中市内の小・中学校を中心に、SGH活動の成果の普及に努める。</p>					

⑧-1 全体	<p>⑤本校ホームページで、日本語・英語により研究成果を世界に向けて発信する。 ⑥校内研究発表会を全校生徒・保護者等を対象に実施する。</p>
⑧ 研究 開発 の 内容 等	<p>⑧-2 課題 研究</p> <p>(1) 課題研究内容 欧米文化とともに世界の大きな潮流であるイスラーム文化の理解の深化を通して、日本とイスラームから新たなビジネススタンダードモデルを構築し、企業への提案や起業、「クラウドファンディング」を通じてイスラーム世界のビジネスリーダーとなりうる人材育成プログラムを開発する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 1. 1年次の「課題研究基礎」では、イスラーム社会における社会貢献活動（JICA）の実際を学ぶとともに、大学研究者による研究入門講座を受講する。1月に大阪大学の留学生（約40名）と英語によるプレゼンテーションを中心とした交流会等を実施する。 2. 2年次の「課題研究Ⅰ」では、「課題研究基礎」の学習を発展させ、次の4観点から研究を進め、その取組と成果を学校全体に広める中心的役割を果たす。 ①<GLOBAL VISION 目的1>「フェアトレード」で生産者の立場に立つビジネスを展開する。イスラーム文化圏に蔓延する貧困が生み出す社会不安を、イスラームの親日国インドネシアでのフェアトレードを手がかりとし、一次産品や手工業製品を「適正価格」で販売する企業提案やクラウドファンディングを募るソーシャル・ビジネスを展開する。 ②<GLOBAL VISION 目的2>「地球環境問題（再生可能エネルギーの活用）」を学び、生活者の立場に立つビジネスを展開する。イスラーム文化圏の貧困がもたらす地域格差やインフラ格差を、河川資源に恵まれているインドネシアでの小水力発電を手がかりに、再生可能エネルギーの導入による問題解決を考察し、自治体や企業に提案を行う。 ③<GLOBAL VISION 目的3>日本とトルコの絆の探究から、イスラーム社会へのソーシャル・ビジネス・プランを提案する。両国が培ってきた絆の歴史的・文化的・社会的過程を探究することで、ステレオタイプではないイスラーム社会の理解を深め、ソーシャル・ビジネス・プランを提案する。 ④<GLOBAL VISION 目的4> 日本とイスラームから新たなスタンダードを創造する。インドネシアやトルコと日本の比較文化的観点から欧米中心のグローバルスタンダードにとらわれない、日本とイスラームの新たなビジネス・スタンダード・モデルを提案する。 3. 3年次の「課題研究Ⅱ」では、研究成果を大阪大学及び関西学院大学との連携を通じてトルコ、サウジアラビア、インドネシアからの大学院留学生、交換留学生、交流学生とアカデミックなワークショップで共有化する。 4. SGS（スーパーグローバルセミナー）生には、イスラームを理解する上でも必須となるアラビア語の初歩を理解する。それに加え、大多数がムスリムで、比較的日本からも行きやすいインドネシアやトルコの学生たちとの共同研究及びフィールドワークを行い相互信頼関係に基づいたフェアトレード等を行う。 「豊高型グローバルマインドセット評価のルーブリック」を活用したポートフォリオ評価を行い研究方法等の改善につなげ、進路意識調査等で、今後の進路への影響度を追跡調査していく。運営指導委員による評価、校内のSGHコース生以外の生徒や他校のSGH校とも交流を兼ねて成果発表プレゼンテーションを行うことで検証する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等・・・特になし</p> <p>⑧-3 上記 以外</p> <p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ・「TOYONAKAグローバルプログラム（TGP）」として、全校生を対象にグローバルシチズンシップ育成プログラムを行う。 ・SET（スーパーイングリッシュティーチャー）配置によるTOEFL仕様の英語授業を平成27年度より文理学科80名を対象に実施する。 ・成果発表プレゼンテーションおよびGTECおよびTOEFL iBTテストで評価を検証する。 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等・・・特になし</p> <p>(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 ①全校生から希望者を募り、毎年英国語学研修（約2週間の短期留学・含ホームステイ）、フィリピン英語語学研修（約2週間の短期留学）を行う。</p> <p>(3) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入）・・・なし</p>
⑨その他 特記事項	特になし

ふりがな	おおさかふりつとよなかこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	大阪府立豊中高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	480人
	SGH対象生徒以外:		360人	360人	人	人	人	600人
目標設定の考え方: 3年前から2年生全員360名に対して行っている社会貢献活動を継続していくとともに、1年、3年にも拡げる								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	70人
	SGH対象生徒以外:		51人	62人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 本校で計画する短期海外研修も含める。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		15%	15%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: SGH対象の生徒の意欲向上とともに、他の生徒にも好影響を及ぼす。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		3人	2人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 1年～3年次での課題研究、SGSコース生等でグローバルな視野での研究を促進し、国内外のコンクールに出場する。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		25%	27%	%	%	%	40%
目標設定の考え方: TOEFLコースを設置し、SGH生徒は全員参加させる。TOEFLコースは文理学科80名を対象とする。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:	4%	6%	%	%	%	%	%	20%
目標設定の考え方: 今後の国際化に対応するための意欲を持たせ、それを意識した進路選択を進める。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: SGH対象の生徒の少なくとも10名が海外大学へ進学するよう、志と実力を養成する。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:	-	-	%	%	%	%	%	30%
目標設定の考え方: 課題研究等で勉強の何たるかを体験させ、引き続き研鑽を深める気持ちを持たせるように指導する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	60人
	SGH対象生徒以外:	-	-	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方: 常にグローバルな視野を持つような取組を行い、卒業後に諸外国を体験する積極性を育成する。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	6人	12人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方：国外の大学、研究機関との共同研究を進め、国外の大学に訪問し、より充実した研究を行う。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	30人	40人	人	人	人	人	人	100人
	目標設定の考え方：文系、理系を問わず、課題研究の成果を国内各所で発表を行う。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	1校	2校	校	校	校	校	校	5校
	目標設定の考え方：海外と連携した課題研究を推進するために、毎年連携校を1校ずつ増やしていく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	54人	123人	人	人	人	人	人	200人
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	8人	12人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方：最新の国際情勢等を分析しつつ、課題研究を進めるために企業や国際機関等の人材の参画を計画する。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	4人	5人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方：課題研究等で問題意識を育成し、国内外の諸課題に対して自らの意見を発表する機会を増やす。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	1人	1人	人	人	人	人	人	10人
	目標設定の考え方：国際化や異文化理解のため、帰国・外国人生徒や留学生の積極的な受け入れを行う。							
h	先進校としての研究発表回数							
	6回	7回	回	回	回	回	回	10回
	目標設定の考え方：理系、文系に関わらず課題研究として全分野での研究発表を校内・校外において行う。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方：平成27年度には外国語によりホームページを開設する。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方：							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,077	1,078					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							